

生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方

—基礎・基本を身に付ける保健体育学習のあり方—

高松支部

三木町立三木中学校 教諭 栗島 恵子

1 主題設定の理由

学習指導要領では、保健体育科において、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てること」をねらいとしている。これらのことが明記された経緯としては、運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていないことが考えられる。また、運動をする子どもとそうでない子どもの二極化や子どもの体力低下傾向が依然深刻な問題となっている。高松支部においても、これまでの新体力テストの結果から、全体的に生徒の体力が低下していることが分かっており、運動の楽しさを十分に感じられていないことが考えられる。学習指導要領の保健体育科改善の基本方針においても、「体を動かすことで身体能力を身に付ける、情緒面や知的な発達を促す、コミュニケーション能力を育成する、筋道を立てて練習や作戦を考え互いに話し合う活動を通じて論理的思考力をはぐくむ資質を踏まえて、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、指導内容を整理し体系化を図る」とあり、基礎・基本の定着させるために教師の支援活動を充実させることが重要であると考えられる。

そこで、本会では、保健体育科の本来の目標である、それぞれの題材の楽しさを十分に味わわせるために、「生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方」の県の主題のもと、「基礎・基本を身に付ける保健体育学習のあり方」をサブテーマに、題材の「基礎・基本」の定着を目指して研究を進めることとした。生徒が、何を学習し、何を身に付ければよいのかが理解できるよう、各授業での指導内容と評価を明確にし、生徒の実態に合わせ教材や教具、支援活動を充実させることで、運動ができる楽しさや喜びを感じることができ、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を生み出すきっかけになるのではないかと考える。

2 研究内容

(1) 研究仮説

保健体育学習における基礎・基本を明確にし、それらを身に付けさせられる教師の支援活動を充実させることができれば、生徒は、それぞれの単元において運動の楽しさを感じることができる。また、それぞれの運動に必要な基礎・基本を身に付けることができ、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を身に付けることができる。

(2) 研究内容

学習内容の中には、「技能（体力）」「態度（規範的態度、情意的態度）」「思考・判断」「知識」がある。そして、これらが肯定的に学習された結果として、生涯にわたって運動に親しむための実践的態度（価値的態度）が身に付くことを期待している。学習内容においては、学習指導要領に明記されていることを基礎・基本とし、それらを中心にそれぞれの観点において研究を進めていく。また、学習

指導要領が改訂されたことを踏まえ、改訂された内容を中心に研究授業を行い、特に、「運動の技能」、
「運動や健康・安全についての思考・判断」において、基礎・基本を身に付けるために必要な教師の
支援活動や評価を中心に研究を進める。

3 研究方法

香中研高松支部保健体育部会研究部における研究の方向性をもとに、各校の実態に応じて各ブロッ
クで授業実践ならびに提案を行う。また、授業実践の前に、研究部員を理論班、教材班、調査班の3
つに分け、学習指導案や教材等を検討する機会を設ける。主な活動については、以下の通りである。

理論班 → 研究テーマをもとに理論化を図る（どこが基礎・基本を身に付けるための手立てや工
夫になっているのかなどを明確にしていく）。

教材班 → 教具や教材の開発、提案（研究授業の実践校の題材が決定した上で、各校でのその題
材に対しての取り組みやワークシート等の提案）をする。

調査班 → 支部内の新体力テスト等について調査し、体力の傾向を探り、教材班との連携を図る
（体力テストの結果から授業でできる体力向上のための取り組みの紹介など）。また、学
習内容の基礎・基本を研究し、アンケート調査を行い、分析する。

実践後においては、グループ討議を行い、実践の振り返りをする。基礎・基本を確認し、学校間で
共有し、考察する。授業観察をする視点については、以下の2点にする。

（視点①）基礎・基本を身に付けるための教師の支援活動と評価について

（視点②）生徒の課題意識と活動の変容について

これらの視点から、教師の支援活動が妥当であったかを生徒の活動の様子や変容から検証し、研究を
進めていく。

4 実践報告

平成23年度

（南ブロック） 高松市立太田中学校 単元名 「体育理論」（2年）

ア 運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全

イ 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果

本実践では、学習指導要領完全実施にあたり「体育理論」についての現時点での不安や不明な点を
共有すること、授業を進めるポイントを共有することを目的とした。実践では、生徒にとって身近な
スポーツの写真やアンケート結果を有効に活用して授業を展開した。現在活動している運動部活動や
スポーツ経験歴ごとにグループを作り、習得した知識とこれまでの経験をもとに話し合いをさせた。
そこから、運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果に気づかせ、自らの考えや友人の考えを分類
したり整理したりする学習を通して、言語活動を充実させ、論理的な思考力やコミュニケーション能
力を育み、互いに学びあえる学習集団を目指した。

(1) 本時の学習指導

学習内容及び学習活動	教師の指導・支援
1 あいさつ、本時の課題を知る。	・元気のよいあいさつをさせ、前時の学習内容を簡単 にふり返り本時の課題を確認させる。
運動やスポーツをみんなが楽しく気持ちよくできるようにするには どんな工夫をすればよいかを考えよう。	

2 運動やスポーツにおけるルールやマナーに関する合意形成について考える。 【発問①】 みんなで楽しく気持ちよく運動やスポーツをするために必要なものは何だろう。 ★キーワード・・・ <table><tr><td>ルール</td><td>マナー</td><td>仲間とのつながり</td></tr></table> 3 仲間とのつながりについて考える。 【発問②】 みんなが楽しく気持ちよくできるようにするにはどんな工夫をすればよいかを考えよう。 4 発表をする。 5 本時のまとめをする。 ・教師の話聞く。 ・感想をワークシートに書く。 ・自己評価をする。 6 次時の予告を聞く、あいさつをする。	ルール	マナー	仲間とのつながり	・ルールやマナーの合意についてより理解が深まるように、スポーツの写真をヒントとして提示し、自分の体験を発表したり、友人の体験を聞いたりする場面を設定する。 ・事前アンケート①の結果をヒントとして紹介する。 ・キーワードを掲示し、それを活用して発言や説明ができるようにする。 ◎キーワードごとに色分けした付箋紙に書き出したり、発表をしたりすることで、自分の考えや仲間の考え方に気づかせる。 【評価②】 自分の考えを書いたり、整理しながら意見交換したりできる。【グループシート】 【評価④】 運動やスポーツを行う際に求められる社会性について理解したことを、自分のスポーツライフをふり返りながら書くことができる。【ワークシート】 ・爽やかなあいさつで感じよく終わらせる。
ルール	マナー	仲間とのつながり		

(2) 授業討議より

（視点①）基礎・基本を身に付けるための教師の支援活動と評価について

○同じ運動経験（部活動）をもつ生徒で班を構成して話し合いを進めた結果、班内での話し合いが活発に行われ、多くの意見を出すことができていた。

○導入で写真を活用したことや教師の説明によって、生徒の思考がスムーズに流れている良い授業であった。キーワードの「ルール」「マナー」「仲間とのつながり」と資料提示に使われた写真がよく考えられており、生徒がキーワードの意味をよく理解し、話し合いがスムーズに進んでいた。しかし、班ごとの発表は行われたが、みんなの意見交流させる場がなかったので、生徒に発表させながら、意見を深める場があれば良かったと感じる。「みんなが気持ちよくできる」では、キーワードが広すぎると感じた。教師の発問が鍵になる。



本時の板書の様子

○この授業を通して「自分だけ楽しければ良いのではない」ことに気づかせることが大切である。そして、それが日々の授業につながっていくと良い。運動やスポーツをみんなが気持ちよくできるようにするためには、どうすべきか考えさせることが大切である。

○この授業を通して生徒に身に付けさせることは、具体的なルールを作るのではなく、ルールを工夫することの大切さを考えさせることが大切である。運動が得意な生徒が運動の苦手な生徒の気持ちに気付かせることが大切である。そこから、様々なルールを考えることにつながるのではないかな。

○食事のマナーは国によってそれぞれ違うという教師の話があったので、その話につなげて、スポーツのルールやマナーもそれぞれであり、野球では、柔道では、といったように各スポーツのルールやマナーについて考えるので良かったのではないかな。

○この授業を通してすぐに結果が出るものではないが、将来生徒たちの生涯体育に関わる意識を高めることができると感じた。この授業で社会性を身につけることにつながると感じた。人間関係や自分の言動を振り返る良い機会になる。

○体育でiPadを活用した授業は増えてきている。無料アプリ等でダウンロードし、使うことも可能である。マット運動などでは、生徒の行った種目の姿勢などを映像で見せ、確認させながら、より質の高い授業を行っている。

（視点②）生徒の課題意識と活動の変容について（言語活動を中心に）

○保健体育における言語活動の充実を図るためには、お互いに話し合う、考え合う、比較し合う、筋道を立てて説明し合うことの共通理解が必要である。意見を出し合う、コミュニケーションを図る、全体の意見を把握することで知識の定着につながり、言語活動の充実を図ることができるのではないかと考える。

○部活動ごとで机を合わせて話し合い、自分の意見を言い、認め合うことができていた。文化部の生徒でグループになり、話し合いをしていたのだが、運動部の生徒の中に1～2人入れたら、運動部の考えと違う視点で意見を出すことができ、より話し合いの幅を広げることがよかったのではないかな。

○今回は、教室の中での授業（座学）であったので、自校で授業を行う際にイメージがしやすく、とても参考になる授業だった。今回は、部活動ごとに分かれての活動をしていたが、全員で活動するためには、種目を絞っても良いのでは？



部活動別での話し合い

平成24年度

（北ブロック） 高松市立紫雲中学校

単元名 健康な生活と疾病の予防「保健・医療機関や医薬品の有効利用」（3年）

平成24年度に完全実施となった学習指導要領を受け、保健学習で新たに加えられた「保健・医療機関や医薬品の有効利用」の授業実践を行った。

高松支部では、「生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方—基礎・基本を身に付ける保健体育学習のあり方—」とテーマを設定しており、体育分野を中心に研究を進めてきたが、平成24年度にあたっては、保健学習で新たに付け加えられた内容が高松支部全体で共有できるよう保健分野で研究を進めた。研究の視点に関しては、体育分野と同様で行った。本時は、医薬品の正しい使い方を学び、課題を考え解決する過程を通して自らの健康を管理・改善していく思考力・判断力を基礎・基本とし、生徒の変容をみた。

(1) 本時の学習指導

学習の内容及び活動	教師の支援及び指導上の留意点
1 医療品に知っていることを確認する。 (1) 一人で考える (2) グループで考える	発 病気やけがの時どうしていますか？ ○ 思いつくことを自由にできるだけたくさん挙げるように指示する。 ○ 既習の学習内容を思い出すよう指示する。 ○ 自分の考えと友だちの考えを区別できるように色を変えて書くよう指示する。 関心・意欲 [観察・ワークシート] A 薬について積極的に書き出そうとしている。 B 薬について知っていることを書き出そうとしている。
医薬品の正しい使い方を身に付けよう	
3 医薬品の使い方について知る。 ・ 医薬品には、主作用と副作用があること ・ 医薬品には、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があること ・ 正しい飲み方があること 4 薬を正しく服用するために理由を考える。 (1) 一人で考える ・ 薬を飲むときにどれくらいの水の量で服用するのか考える ・ 食後に1錠、のみ薬を飲み忘れたらどうするのか考える (2) 発表交流する。	○ 医薬品について理解させるために、身近にある医薬品やその活用の事例を題材として取り上げる。 ○ 主作用、副作用については、正しい使用法と関連させながら説明する。 ○ 薬を水と一緒に飲むという方法について自分の経験をもとにして理由を考えるように指示する。 ○ 薬だけで服用するとどのようになるかを考えるよう助言する。 思考・判断 [観察 ワークシート] A 薬の服用について、薬の特徴をとらえて自分の意見とその理由について書き出している。 B 薬の服用の仕方について自分の考えを書き出している。
5 本時の学習のまとめと次時の学習のねらいを確認する。	○ 血中濃度は、「体の中の薬の量」と言い換え、専門用語を使わないようにする。 ○ 本時のまとめと次時の学習について説明する。

(視点①) 基礎・基本を身に付けるための教師の支援活動と評価について

○主作用・副作用について知識・理解としておさえられており、ワークシートにわかりやすく整理することができ、ほとんどの生徒が「薬の正しい服用」についておさえることができていた。

○生徒のワークシートに本時の評価規準が明記されており、生徒が、授業

の振り返りをしやすくなっていた。このことにより、本時の指導と評価が一致させられていたと考える。また、友達から評価される場面もあったため、客観性もあった。

思考・判断		自己評価	友達からの評価
A 薬の服用について、薬の特徴をとらえて自分の意見とその理由について書き出している。 B 薬の服用の仕方について自分の考えを書き出している。			

ワークシート：生徒の自己評価

○実際の薬のパッケージから、医薬品の作用を使う上で大切なことを見つける活動を通して、正しい医薬品の使い方を身に付け、自分の生活と関連させながら考えることができていた。

（視点②）生徒の課題意識と活動の変容について

○授業の導入で行ったことが、生徒の医薬品とのかかわりについて全体で共有したことで、生徒の実態がわかり、学習が進むにつれて生徒の考えをもとに正しい医薬品の使い方を確認することができていた。

○薬の模型や薬のパッケージや箱を実際に使って活動していたので、生徒も大変意欲的であった。

○パワーポイントを活用し、様々な資料やグラフがあり分かりやすく知識を理解することができた。



教具：薬の模型

（南ブロック） 高松市立木太中学校 単元名 武道「剣道」（２年）

体育分野における第１学年及び第２学年を通じ、選択であった「武道」に焦点を当て、第２学年女子における剣道授業の実施を行った。この授業においては、技能を確実に身に付けさせるための手立てとして、教具の開発を行い、実践した。また、OPPシートを活用することによって、毎時間の授業の振り返りを行わせ、自己の課題を明確にさせた。

剣道の授業において、技能の評価が難しいという意見が多くあったため、技能を評価する手立てとして、打突部位に印をつけ、生徒及び教師の評価に役立てた。以下の②は、技能における評価規準である。

A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
① グループでアドバイスをしあいながら意欲的に取り組んでいる。	① グループで協力して取り組むことができる。	① グループで協力できていない。
② 竹刀の打突部で印を付けた部位に刃すじ正しく打てたか。	② 印を付けた部位を打てたか。	② 印を付けた部位を打てない。

①関心・意欲・態度 ②技能

（１）本時の学習指導

学習内容および学習活動	教師の支援および指導上の留意点 ◎活用の場面 ■評価の場面 ▲支援の場面
1 胴と垂を着衣させて点呼、健康観察の後座礼をし、準備運動をする。 2 剣道基本技稽古法を復習する。 3 本時の学習を確認する。	・大きな声を出させながら体をほぐさせる。 ・形を覚えるのが目的ではなく、適切な間合、正しい刃すじ、体さばき、打突の機会、残心などがわかることが重要であることを確認する。
学習課題 二段の技を正しく打とう	
4 防具を着ける。（面・小手） 5 しかけ技の練習をする。 ・二段の技（小手→面）の説明をする。 ・グループ内で話し合いながら練習す	▲２人組で確認させる。 ▲しかけ技は、自分から積極的にしかけて相手の隙を作り、打ち込む技であること。二段の技は最初の小手打ちに相手に対応

る。 ア 中段のかまえができていますか。 イ 一足一刀の間合いをとりながら足さばきができていますか。 ウ 正しい部位を打っているか。 エ 声が出ているか。などを確認しながら練習を進めていく。 ・5人グループで約束稽古を行う者と評価する者に分かれる。 6 まとめ 自己評価とグループ内評価をする。 (opp シートに記入する)	して隙ができたときに面を打つことを理解させる。 ■「面」「小手」等の声が出ていない場合は有効としないことを確認させる。 ◎約束稽古を行っている以外の3人は、印を付けている部位に打突が打っているかを判定し、打てた時は赤旗を挙げる。 ■印を付けている部位を意識して打たせる。 ▲安全確保のため、生徒の立ち位置を図示し確認させる。 ▲赤旗が積極的に挙がっているグループに模範をさせ、二段の技が正しく打っているか全体で相互評価させる。 ▲適切な間合い、打突ができていたか、声が出ていたかを確認しながら話し合いをさせる。
--	--

(2) 授業後の討議より

(視点①) 基礎・基本を身に付けるための教師の支援活動と評価について

○竹刀に赤いテープが貼られていたので、打つポイントとしては分かりやすかったが、一部分だけ貼られている竹刀と一周貼られている竹刀があった。特に、一周貼られている竹刀に関して、竹刀の構造上、切れ目を入れていた方がよかったのではないかな。

→統一して貼っているとより生徒が分かりやすくして良いように感じた。

○面をつけたとき音が聞き取りにくくなるので、アドバイスをするとき、あらかじめ、アドバイス内容を色分けしておき、できていないところをその色の札を上げるのもよいのではないかな。

○女子の中学生が剣道を行うには、間合いの取り方や足さばきなどを分かりやすく説明し、指導することが大切である。約束練習として、足さばきの仕方や順番など、具体的に決めておくと生徒はやりやすかったのではないかな。

○教員の指示だけで二段の技（小手→面）のリズムが変わるか。（生徒が理解して取り組めるか）

→感覚で分かる生徒であればできるかもしれないが、言葉だけでは厳しい。また、手だけでなく動くが、足さばきまでは難しい。その手立てとして、声の大きさや足さばきの仕方等のポイントを押さえた判定試合の方が、良かったように感じる。もしくは、足さばきなどを繰り返し行ったり、日常生活等で生かしたりする工夫が必要である。



教具の工夫

（視点②）生徒の課題意識と活動の変容について

○話し合い活動の時間は、タイマーなどを使って時間の区切りを設定すると、生徒が話しやすくなるのではないか。

○OPPシートは、前時までの振り返り等があり、学習全体の振り返りがよくできていた。それに加えて、考えた事や気づいたことが書けるような工夫があったり、どんなアドバイスをもらえたかを書けるところがあったりするとよい。また、発表できる場が設定されるとよいのではないかな。

○二段の技のDVDを生徒に見せていたときに、生徒は防具を身に着けたまま見ていた。

（防具があると）→見にくい。また、メモがとりにくい。

（防具を外すと）→時間がかかる。

しかし、聞こえづらいからこそ、生徒の聞く姿勢がよくなり、より集中できるようになった。逆に生徒どうしが近い距離で会話するなど、いつもと違ったコミュニケーションの取り方が非日常で面白い。



技能の相互評価の様子

平成25年度

（南ブロック） 高松市立国分寺中学校 単元名 球技「ベースボール型」（1年）

学習指導要領において、球技の領域を、第1、2学年において全て学習することになったことを踏まえ、女子ではあまり実践されてなかった「ベースボール型」で研究を進めた。本実践では、第1学年女子を対象に、ベースボール型の基礎・基本を身に付けさせるため、教具や教材の工夫を行った。また、バランスよく評価活動を行うため次のように指導計画に評価する観点を明記した。

時	学習内容	評 価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	オリエンテーション				◎	ソフトボールの特性や歴史を理解している。	学習カード
2 3 4	守備練習 (キックベースボール)	◎		○		ベースボール型の基本的なルールを理解し、効率的な守備を行うことができる。	学習カード 観察
5 6 7	攻撃練習 (バッティング)			◎	○	バットの基本操作を理解し、遠くに打つことができる。	学習カード 観察
8 (本時)	簡易ゲーム (T バッティングゲーム)	○		◎		習得した技能を生かして、簡易ゲームを行うことができる。	学習カード 観察
9	チーム別課題練習		◎	○		チームの課題を見つけ、協力して練習することができる。	学習カード 観察
10 11 12	ゲーム	◎	○			フェアプレイを心がけたり、作戦などについての話し合いに参加したりすることができる。	学習カード 実技テスト 観察

(1) 本時の学習指導

学習内容及び学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
1 集合・挨拶・人員報告をする。	・早く集合できた者や準備物が整っている者、準備を手伝った者を賞賛し、学習の意欲づけを行う。 ・前時までの練習を振り返りながら記入させる。
2 学習カードに本時の学習課題を記入する。	
身に付けた技能をゲームに生かそう	
3 各チームで準備運動と基本練習（Tバッティング）を行う。 ①円になって準備運動する。 ②各チーム2つに分かれて基本練習をする。 ・1人2周打ったら守備と交代する。	・バット操作の掲示を見せ、動きの確認をする。 ・各チームの間隔を充分に取り、安全面に考慮させる。 ・キャプテンを中心に大きな号令を出させ、体をほぐさせる。 ・Tバッティングでは、手がつっぱらないようにコンパクトに振り、つま先が前に向かないように意識させる。 ・ボールの正面で捕球することを意識させる。 ・上手く出来たときや失敗したときの声かけをするようにアドバイスする。 ・安全確保のため、バッターボックスの近くに防球ネットを置き、待っている生徒はそこから応援するように指導する。
4 簡易ゲームを行う。 ＜ルール＞ ・3アウトチェンジ。 ・ボールはバレーボールを使用する。 ・グローブは使用しない。 ・バッティングティーを使用するので、3回空振りで1アウトとする。 ・バットを放り投げた場合も1アウトとする。	評 ベースボール型の基本的な技能を理解し、実践することができる。【技能：観察】
5 用具の片付けをし、学習カードに記入する。	・ゲームの中でできたこととできなかったことを、チームで話し合いをさせる。
6 次時の授業について説明し、挨拶をする。	・次回の課題練習につなげるために、各チーム代表者に発表させ、意識付けをする。

(2) 授業後の討議より

（視点①）基礎・基本を身に付けるための教師の支援活動と評価について

○ソフトボールは、女子にとっては難しい種目であると感じた。経験のない生徒にとっては、ルールを理解することも難しい。ましてや、グラブを扱うことは困難であると思われる。そのため、今回使用した教具はとても効果的であり、ベースボール型の本質的な面白さを理解することが容易であり、苦手な生徒も積極的に取り組んでいた。また、今回はバレーボールを使用した。打つボールが大きくて良かった。2年になり、ソフトボールのように小さいボールとグラブを使用する場合はまた、新たな課題が必要である。



授業で使用した教具

○ボールの大きさや柔らかさ，9人にこだわることなく人数を増やしても良いと思う。また，場所を広くしたり，少人数でゲームをしたりするなど，全員が動かなければいけない場を設定して，運動量を確保する必要もあると感じた。

(視点②) 生徒の課題意識と活動の変容について

○グループごとの課題が出ているが，そのことが今必要か，練習できているのか，それについての先生のアドバイスを聞かせていくともっと良くなると思う。

○子どもたちの出した課題だが，練習中には意識がうすかったかもしれない。教師の助言が必要だと思った。しかし，生徒は，最後のまとめの時にキャプテンを中心に話し合いがよくできていた。

○チーム練習のときに，守備をしている生徒がかたよっていたため全員が守備練習できていなかった。例えば，守備についている全員がボールを捕れるように一列に並び，順番に捕る方法など実践してみても良いのではないか

○最初にグループの課題を生徒に提示させていたが，楽しくやっという課題と，進塁や守備に関する課題が混在していた。生徒に課題を持たせるときに教師側がこの授業において何をねらいとしているかを明確にし，生徒に明確な視点を与える必要がある。

○アウトについては，打者が2巡目のときに，フォースアウトを取るようになっていた。このことは，守備→攻撃→守備の活動の中から，見つけ出したのでは。これも活動の変容があったと思う。



ゲームの振り返りの様子

5 研究の成果と今後の課題

高松支部では，ここ数年にわたり，学習指導要領の改訂で新しく必修となった領域を中心に研究を進めてきた。特に教師の支援活動や評価についてのねらいを研究授業の計画段階から研究部員で明確にしたことで，以下の成果と課題が得られた。

○生徒に何を身に付けさせたいのか，学ばせたい内容を教師が共有するきっかけになった。

○新たに加わった学習内容を具体化し，何を学ばせなければならいのか，教師の意識付けができた。

○教師が学ばせたい内容を明確にした結果，特に苦手な生徒が以前より積極的に取り組めるようになってきた。

●教師側の生徒に学ばせたい内容と生徒の課題意識にずれが見られた。生徒の課題意識の持たせ方が不十分であった。生徒自らが進んで課題を見つけられるように，問題や課題の発見をさせる手立てや支援を工夫する必要がある。

●今回の実践において，教具や教材の開発，工夫などはよくできていた。しかし，教師の支援活動や発問の内容を精選することができていなかったため，苦手な生徒は積極的に取り組めてはいたものの，技能の向上は難しかった。一人一人の技能の向上を保障するためにも，さらに支援活動や発問の内容を工夫していく必要がある。